

平成 28 年度 学校法人筑紫女学園大学附属幼稚園 学校自己評価表

評価段階公表シート

1. 実施段階の項目別

分野	評価項目	評価	取 り 組 み
教 育 課 程	宗 教 教 育	A	<ul style="list-style-type: none"> 命の大切さ、感謝と思いやりの心など、豊かな心の基礎を育てるために、毎日、登園時、降園時の御仏様へのご挨拶、昼食時の感謝のこたば、宗教的行事の法話などの豊かな生活体験を積むことができた。
	教育課程・指導	A	<ul style="list-style-type: none"> 発達特性に応じて、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域の面から、年間指導計画や週案を作成し、子どもの自発的な活動を尊重しながら、指導に当たってきた。 したがって、週案通りというよりも、子どものその日の活動の実態に応じて、翌日の活動案を修正し、1週間であてに到達できるように指導を工夫している。
	自然・環境教育	A	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境に恵まれたよさを生かし、学年の発達特性や季節に応じた植物採集や昆虫採集、さらには、栽培活動などの体験活動を通して、環境教育として「いのち」の大切さを実感させることができた。このことが、思考力や表現力、思いやりの心の基礎を育てることにつながることができた。
	行 事 儀式、誕生会 遠足、運動会	A	<ul style="list-style-type: none"> 入園式、卒園式は保護者の祖父母、両親の参列が多く、遊戯室が満員で、父親のほとんどが、立ち見状態となってきたために、教室にモニターテレビを2台設置し、祖父母が椅子に座って観れるように配慮した。 園の特色ある伝統的な行事が、前例踏襲的になりがちであったため、内容を見直し、方法を改善しながら実施することができた。 秋の遠足については、貸し切りバスの関係で、期日と目的地を見直す必要である。
	女 子 教 育	B	<ul style="list-style-type: none"> 学園唯一の男女共学の本園では、学年に応じた活動の中で、園児は男女の区別なく協力して活動することができた。上学年の園児は、下学年の園児に遊具の使い方を教えたり、譲ったりまた、未就園児の世話をしたりすることができた。こうした活動を通して、男女が互いに助け合っていくことの大切さに気付かせることができた。
学 校 管 理 運 営	経営・組織運営	A	<ul style="list-style-type: none"> 園務分掌組織を整え、職務内容や服務規定を明確にし、主任会議を定例化することで、それぞれの職務を自覚し、トップダウンとボトムアップを通して風通しがよくなった。 各主任はミドルリーダーとしての意識を高め、管理職や異学年の連絡調整、同学年の所属職員への指導・助言を適切に行い、幼稚園が組織として気のするようになった。

学 校	研 修・研 究	B	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌組織に初任者（若年）指導教員を配置し、学期に一度の読み聞かせや公開保育等の初任者研修や若年研修を実施し、反省会を開き、資質向上に努めてきた。 ・主題研究については、検討中である。
	特別支援教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の間関係専攻の先生と連携を取り、特別な支援が必要な園児に対して、望ましい支援・教育の在り方について指導を受けている。必要に応じて、保護者相談にも応じている。 ・定期的に特別支援センターに通っている支援が必要な園児について、幼稚園と特別支援センターが連携を取り、相互の教育や支援に役立つように、情報交流をしている。 ・専任、非常勤の職員を問わず、土曜日に実施される保育心理士研修講座に、受講可能な教職員を受講させたり、福岡県主催の特別支援研修に参加させたりして、特別支援教育についての研修を積ませている。
管 理	自 己 評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各担任、養護教諭による自己評価を含めた業績評価を毎学期実施し、自ら立てた目標や内容、方法について自己評価し、問題点を次の学期の課題として設定し、課題解決ができるようにしている。年度末には、職員自身による自己評価に対して、管理職による評価を行った。
	施 設 設 備	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎の老朽化が激しく、新園舎を平成 28 年度に完成する予定で進められていたが、計画が延期され、現在、園舎の至る所で不備が目立ち、その都度、補修を行ってきた。しかし補修費が高額で緊急を要しない場合は、数年後の新園舎建築を待ち、必要最小限の補修にとどめている。
運 営	安 全 管 理	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎老朽化で、安全面ではかなり問題があるために、定期的に各教室、廊下、トイレ、遊戯室、および園庭の各遊具の点検を行い、早急に改善の必要がある個所について、新園舎建築との関係で修繕を行ってきた。 ・2 学期に火災による避難訓練、3 学期に地震による避難訓練を実施し、教職員及び全園児の安全対応能力を向上させ、防災意識の向上に努めた。
	保 健 管 理	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の健康観察や感染予防のための取り組み、家庭や地域の保健・医療機関との連携を密にし、健やかな心と体づくりに取り取り組んできた。 ・ほげんだよりを毎月発行し、園児の健康・安全の情報提供を行ってきた。 ・緊急時に、確実に対応できるように全職員の緊急講習会を実施した。

	情報発信	A	<ul style="list-style-type: none"> 園の行事、日常の特徴的な教育活動については、その都度、ホームページで積極的に公表するように努めてきた。また、幼稚園だより、園長室だより等を定期的に発行し、教育活動についての情報発信に努めてきた。ただし、園児個人に関する情報については、管理を厳しくしてきた。
各 機 関 連 携	保護者との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> 母親を中心とした日常の給食ボランティア、読書ボランティア、年間10回程度の父親の会「らいおん組」などの活動が定着し、計画的に子どもの教育活動を支援することができた。また、秋の落ち葉の季節には、ピカピカ大作戦に多数の母親が参加している。
各 機 関 と の 連 携	学園との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な幼稚園・大学連絡協議会を通じて、教育実習を効果的に進めるための話し合いや、教育実習を直前に控えた学生に対する幼稚園職員による指導など、附属幼稚園としての使命を果たしてきた。 中学校・高校とは、音楽を通して、生徒と園児との交流が始まったところである。
	各連盟との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> 福岡私立幼稚園連盟の研修会、浄土真宗本願寺派福岡保育連盟の会議や研修会、まことの保育連盟の保育合宿及び全国大会等に積極的に参加し、研修を積み上げるとともに、交流を深め、情報収集に努めてきた。
子 育 て 支 援	預かり保育	A	<ul style="list-style-type: none"> 始園式、卒園式等の節目の儀式がある日を除く登園日のほとんどを子育て支援の一環として、放課後の預かり保育「たけのこ」クラブの積極的促進を図ることができた。 長期休業中の預かり保育についても、保護者や地域の実情から検討してきた。
	2歳児保育	A	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の一環として、2歳児教室「たんぽぽ」4コースと月1回の「どんぐり」を実施し、幼児教育の重要性を明らかにすることができた。